

美濃市うだつの上がる町並み

うだつ保全地区は、東西に走る 2 本の大通りと、南北に走る 4 本の脇道で構成されています。これらの通りは電線や近代的な看板が目に入らない、昔ながらの街並みになっています。

防火と富の象徴

この辺りの商家は、江戸時代（1603～1867 年）後期から明治時代（1868～1912 年）初期にかけて建てられており、その多くの家の両側には、屋根よりも高く伸びる防火壁が設置されています。このうだつには耐火性の漆喰が塗られており、その上に装飾瓦が載せられて、延焼を防ぐための工夫が施されています。江戸時代の家屋は木造が多く、ひとたび火災が発生すると、通り一帯の家屋に瞬間に燃え広がる可能性がありました。うだつ付きの家を建てるにはお金がかかり、次第に、うだつは富の象徴となっていきました。

美濃で繁盛している紙商人たちは、より高く、より豪華な装飾が施されたうだつを設置しようと、競い合っていました。うだつには瓦が載せられ、家紋や鬼瓦が付されることもありました。この恐ろしい見た目の鬼瓦は、火災、雷、悪霊などから家を守ると言われています。うだつ保存地区では、それぞれの鬼瓦が特徴的な形をしています。この防火壁はすべての商家にあったわけではなく、共有していた家々は、1 つのうだつで 2 つの家屋を守るのが一般的でした。平田家と古田家のうだつは、隣接する別々のうだつでありながら、それぞれ異なる装飾モチーフが施された珍しいものです。美濃のうだつ建造物は、国の重要文化財に指定されています。

商家

保存地区の 2 階建ての商家は、1 階の手前に店舗があり、奥と 2 階に家族や従業員の居住スペースがありました。地租は道路の間口の広さを基準にしていたので、商家の多くは細長い形をしていました。中庭、格子窓、天窓は、プライバシーを損なうことなく、空気の循環を促し、室内に明るさをもたらしています。

現在、この地域の多くの商家の表側は店舗として機能しており、「旧今井家住宅」は全て一般公開されています。旧今井家邸は、美濃の商家の中では最も規模が大きく、代々町の行政のトップを務めた今井家の財力と影響力の大きさを示しています。小坂酒造場は 1772 年に建てられ、今でも営業しています。馬車で荷物を運べるよう建物の奥の方まで続くレンガ敷きの床や、中庭、現在では

アートギャラリーとして使用されている蔵など、当時の面影を多く残しています。建物正面の売店では、歴史的な写真や資料の閲覧、日本酒の購入が可能です。